# 凹つ葉のクローバー

# のたより No.9

# 進化させよう! ハードエネルギー社会からソフトエネルギー社会へ

「原発を考える会・玉川学園」 2015年4月1日発行

ハードエネルギー社会: 化石燃料や原発に依存し環境や持続性を損なう社会

ソフトエネルギー社会:省エネや太陽エネルギー等自然エネルギーに依存し環境保

全や後世に配慮する優しい持続社会

# 再稼動は危険!

当会顧問 井野博満

川内原発1・2号機、高浜原発3・4号機と再稼動が進められようとしています。しか し、原 子力規制委員会の適合性審査には不備があります。既存の原発を無理に動かそうと するからです。 過酷事故対策は万全ではありません。防災・避難計画も絵に描いた餅です。市民から1万通を超 えるパブリックコメントが寄せられたにもかかわらず、ほとんど 無視されました。福島事故の教 訓が生かされていません。

安倍首相は、「原子力規制委員会で安全性が確認された原発は、その科学的・技術的判断 を尊 重し再稼動を進めます」と言っていますが、規制委員会の田中俊一委員長は「基準の 適合性を審 査した。安全だとは申し上げていない」としています。誰も安全を保証してい ません。

原発の台数にそれぞれの運転年数をかけた総運転年数は、16,000炉年です。その間、スリー マイル、チェルノブイリ、福島と5基の原発が過酷事故を起こしました。3,200炉年に1回の事 故確率です。現在、世界中でやく430基の原発が運転されていますから、今後、7.4年間の間に また大事故が起こってもおかしくないという高い確率です。

原発再稼動は、国民の多数が反対しています。技術的に不安で経済的にも不要な原発を なくす よう努力を続けていきたいと思っています。 (東京大学名誉教授、玉川学園在住)

# 高校生と作る生きた授業

## 現実から学ぶということ

私立高校教諭 佐々木 太郎

私の受け持つ選択授業では原発問題の新聞の 切抜きを読ませ、感想と自分の意見を書かせている。

しかし、今、ネットの影響は大 きい。「避難者は今 になって文 句を言っているが、原発立地の 住民として利益を味わってきた のだから仕方ないのでは ない か」、中には「原発事故が起きて から急に原発 批判を始める大人

たち」への反発もある。さらに急速に進む無関心。 表層を見て知った気分になっている高校生にどう授

> 業を進めたらこの現実を自分の 問題と考えさせられるだろうか。

そこで、可能な限り、生徒 自ら 体験することを追及していく。DV Dドキュメンタリー、『残された 動物たち』などを見せる一方、

フィクションであることを説明した上でドラマ映像も取り上げる。1970年代に制作された『チャイナシンドローム』の感想には変化が出てくる。「この映画を観て私は原子力発電所の実態とそれを運営している人が金儲け中心だということのような気がします。原発事故が起きて放射能が漏れると、電力不足以上に市民の生活は苦しくなります。」(女生徒)

他にも『見えない雲』では同世代の主人公の気持ちを理解する感想が多かったが、同時に恋人が彼女の病院に滞在するシーンで被曝が「感染」するのはおかしいのではないかという批判も出た。『十万年後の安全』では核廃棄物を将来に向かって隔離することの技術的困難、現在の原発利用への疑問の声も多く上がった。

一学期の授業が終る頃、受講生を連れて学校から150キロの所にある**浜岡原発に出かけた**。現在、防波堤のかさ上げ工事をしている。生徒たちは浜岡原発がいつおきてもおかしくない東海地震の震源域にあること、しかも海辺の砂丘の上に立っていることを改めて知る。中部電力資料館では、東日本大震災から学び、考えられる対策を施していると説明を受けた。しかし、生徒たちの質問は厳しい。「最大21メートルの津波想定に22メートルの防波堤で十分なのですか?」「原子炉の圧力容器が16センチの鋼鉄だとしても原子炉とつながる沢山の配管部分はどうなのですか?」案内係もたじたじする程だ。

二学期には受講生数十名が国会前の反原発抗議集会の取材に出かけた。「デモ」は怖いものと考えている高校生も少なくない。社会問題に市民として声を上げることさえ、遠い世界の行動と考える若者達。事前に「インタビューメモ」を作り、一

人加タる発のど動思すい者ビ。にでうしっかのイーも対がてうの「かいたった」



分は電力が不足しないために原発が必要だと思いますが、原発なしで日本の電力は足りますか?日本経済の発展にはどうですか?」インタビューを受けた集会参加者も高校生相手に原発反対の気持ちを懸命に説明しようとしている。事後のまとめに「3月11日の巨大地震で原発が爆発したという事実は知っていたものの、心のどこかで自分には関係ないことだと目をそらしていたのかもしれません。原発再稼動反対のデモをこの目で見たとき、正直圧巻でした。」と感想を書いた女高生もいる。

秋に行なわれる学園祭で「DEBATE DISCUSSION 原発は必要か?不必要か?」の討論会を学習のまと



めとして提起した。成功させるためには事前の一定の知識の積み上げと討論の訓練も必要になる。 模擬店やお化け屋敷などが主流の学園祭で討論会 はかなり異色で硬派な取り組みとなる。 賛成派と 反対派に別れた壇上のパネラーは討論を引き出す 役割、会場の他の受講生は自分の意見を一回は発 言しなければならない。 百名を超える会場参加者 の大人も高校生に混じって発言する。 二時間もの 討論もあっという間。授業では発言の少ないM君 が思い切って手を挙げた。「僕は原発に反対します。 原発で簡単に発電できるかもしれないけど、人類 が対処できない核廃棄物を作り出すからです。」

数ヵ月後、M君のお母さんが学校の教研集会で発言した。「ゲームに夢中で、原発に無関心だった 息子が討論会で発言しているのを見て、涙が出る ほど感動しました!」いま、現実から学び考えよ うとする若者も育っている。

(八王子市在住)

#### 【国会インタビュー生徒の声】

- この集会で発信する人たちの声は私が考えていたよりもっと大きくて意思の強いものだった。「生活があるから逃げることは出来ない。」この言葉が印象に残っている。私が最初に考えたことは「生活があるからもしもの時は遠くへ逃げる。」でも、よく考えたらそんな事は出来ない。捨てることが出来ない大切なものがある。だから私たちに出来ることは「原発反対」という声を上げ続けるだけなのだ。おばさんが言っていた「人類はそんなに愚かではない」という言葉。私も出来ればそう信じたい。もっと若い人たちにもこの集会に参加して欲しい。(T. A さん)
- ●これだけ真剣に考えて行動している人がいるのに、政府が向かう方向がおかしくなっているのは何故だろう。想像より規模は小さかったけれど、道のいたるところで様々な方法で抗議している人がいてすごいと思った。「若者のため」「子ども達のため」「次の世代のため」と訴えていたのに、その「若者」が少なかった。起こった事実を忘れて再び繰り返すことの無いようにするためにも、私たちはもっと知らなければと思った。 (Y. M 君)

## 映画紹介

#### ① 「東京原発」~14年前の予言的映画~

脚本·監督 (2002年) 山川 元

役所広司演ずるカリスマ都知事が新宿中央公 園に原発をつくると爆弾発言をして都庁はパニ

ックに。推進するか反対す るか意見がぶつかり議論 白熱。原発のメカニズム とトラブルについて、専 門家が詳しく説いていく。 カリスマ都知事の本当の 狙いは?危険なプルトニ ウム燃料がこんなに安易 に扱われているのか。痛 烈なユーモアと緊張感、



福島原発事故後なので原発

の本質がよくわかる。福島原発事故の10年前に この映画が作られていたこと、事故が専門家の 説明通りに推移したことに改めて驚きをもって 見た。岸部一徳,段田安則、吉田日出子等、実 力派俳優多数出演。DVDレンタル108円(蔦屋)

## ②「日本と原発」

~なぜ、弁護士がドキュメンタリー映画 を作らねばならなかったのか?~

監督:河合弘之 構成:海渡雄一 音楽:新垣 隆 撮影: 広河隆一

川内原発に続き現政権は、なぜこんなに次から 次へと再稼動を焦るのか、それにも増してなぜ私 達の周りの人々はこれほどまでに無関心あるいは 中立の姿勢を保っているのか。

福島ではいまだに高濃度のセ シウムを排出、51人の子供が 甲状腺ガンの手術を受けた等の 現実を知らないからなのでしょ うか。マスコミが伝えないのな らこの映画を見ましょう!

バブル期の辣腕企業弁護士が 「社会のため人のため」と思い立 ち、私費で2年かけて作った映 画で、国民に浸透した「安全神 話・雇用経済幻想」が絨毯爆撃を



浴びたかのように論破されていくある意味痛快な 作品になっています。

原発はいま阻止しなければ「種の損傷」とつな

がりかねない"愚"だと認識できます。

特に迷っている人、ぜひ一度観てください!

★いろいろな所で自主上映されています。上映日程に ついてはインターネットで「日本と原発」で検索して ください。

## 四方山ばなしシリーズ NO. 9

#### 「肉体崩壊」って何? どうなるの?

当会顧問 藤井石根

余りにも惨たらしいので言わないでおこう、そ んな考えで公にされないできた事柄は沢山ありま す。放射能についても少なくありません。前回で は少ない放射線被曝について記述し、癌になるメ カニズムにも触れました。しかし現実には必ずし も少量の被曝で済まされるとは限りません。場合 次第では多量に浴びてしまう事故も起こっていま す。そんなときにはその影響はどうなるのでしょ うか。その一つの症例が「肉体崩壊」です。学校 等では教えられないと思いますが、これが結果的 には放射線は危険なものとして捉える気持ちを持 ちにくくしているのかも知れません。

#### 【既に日本でもあった肉体崩壊事故】

さて、「朽ちていった命」と題する書物(\*)があ ります。1999年9月末に茨城県東海村の核燃料加工 施設、JCO で臨界事故が起こり作業していた二人の 従業員が被曝しました。その書物はそのうちの一 人、大内久さんの被曝後の身体の状況変化を亡く なるまで詳細に報じています。それによると彼の 中性子線の被曝の程は、広島での原爆投下で爆心 地から100メートル以内にいた人々が受けた量に匹 敵する量で致死量に達していたと言われています。 受けたエネルギー量としては体温を1000分の2~ 4℃上昇させる程度で非常に少ないものですが、そ れでも造血幹細胞は破壊され、全身は火傷、皮膚 の再生能力も失われてしまいました。すなわち皮 膚を作り出す細胞の設計図、DNAが放射線で壊 されてしまった為に新しい細胞を造れなくなって しまったと言うわけです。

さて、ご存知のように私達の身体を構成してい るあらゆる細胞は日々、入れ代わっています。古 い細胞は死に、代わりに新しくできてきた細胞が この任を補うというサイクルを繰り返しています。 皮膚の場合も同様で、古くなった表皮細胞から 次々と死んでいき垢として剥がれ落ちて行きます。 その後を次にできてきた新しい皮膚細胞が担うの です。もしこの後を担う筈の新しい皮膚細胞がで きて来れなかったらどういう事態になりますか?

想像できますようにやがて皮膚は失われてしまいます。実際上は皮膚は無くなって下から肉が見えてくるようになります。大内さんの場合もそのような状況になったと伝えられています。大内さんの造血幹細胞破壊の影響は毎日10%を越えるえる輸血と輸液で対処したそうですが、腸管組織の破壊による下血等を身体の多くの組織や細胞でこうした症状が現れてきたら最早、手の施しようは有りません。これが「肉体崩壊」というものの現実です。

#### 【チェルノブイリ原発事故では】

こうした現実の他の例としてはチェルノブイリ原発事故でその処理作業に係わった人達の例もあります。ここでの作業は60~80万人とも言われ、彼等は一生で浴びる放射線量をたった1~1.5秒で浴びてしまったといいます。その後の彼等の状況はどう推移したか、インタビューのかたちである人を対象に報告がなされています。

すなわち、事故から5年後の1991年でのインタビューでは、身体の具合についての問いに対して「余りにもいろいろな病気が発症して数え切れない。左半身が動かない辛い症状の中でも家族を養うために働いている。」と答えています。

次の1999年のインタビューでは「しきりに倒れるようになって、車椅子の生活に」と言っています。しかし、2001年には代わりに奥さんが答えています。病状の悪化が進んだ為です。彼

女はこう言っています。「常日頃、入退院を繰り返していたのにそんな症状は見たことがない。演技だと医者から言われ厄介者扱いにされた。そのあげくに半年も寝たきりになりそれからどんどん肉体の崩壊が始まった。腸骨が見えるようになった。しまいには背中の肉が全部そげ落ち骨がむき出し

#### 【原発事故後も原発再稼働と叫ぶ人達、

#### その心は?】

顧みますとこのような悲惨な肉体崩壊は原発など核を扱う施設が存在している限りいつでも起こり得ます。起こった事故を止めるには結局は生身の人間が対峙せざるを得ません。ここには犠牲者が生まれる必然性があります。そうした犠牲者の上に胡坐をかいていて心が痛まないものでしょうか。福島原発事故後も原発の再稼動を叫ぶ人たち

の心はどうなっているのでしょうか。己の身を**犠牲者に代えて考えてみることが必要です**。

(\*)NHK 取材班編、朽ちていった命(平成18年10月)(株)新潮社

(明治大学名誉教授、玉川学園在住)



福原民風事し再再他は島子意化故き稼稼国を 意無 力 力無視する い動動に 0 野菜は ゴ値 マ私ま 故企 前 3 がク ŧ で 民意無視 ĺ۴ とゴ 業 見 地 かの 食べ 処え 0 ナ 元 ら 3 み見理なル 6 へてる? く処理別 ないのが ĸ 地 ウ 0 球 ラ ょ 丰 ?別れて ン いや h が 1 関原 華 0 ワ 原子 進 金政心発 が 派 権度業

#### 【編集後記】

四度目の「3・11」が巡ってきた。その夜、ある局で「核廃棄物と最終処分場」の特集が組まれ、フランスやドイツの抱える地層のズレと地下水の問題点を伝えた。「十万年後の安全」の映画でも有名なフィンランドの強固な岩盤の中の最終処分場「オンカロ」でも、地下水の懸念が出てきているという。その時フィンランド人が言った言葉が特に鋭くのことも考える国民性を持っている。」「54基(日本…フィンランドは現在4基)もあって最終処分場を考えないなんて!」その直後の日本の政府高官の「再稼動と最終処分場は別問題と考えている」との発言。

私たち日本人の国民性とは? 「喉元過ぎれば熱さを忘れる…」「経済最優先…」「今さえよければ…」「長いものには巻かれろ…」「出る杭は打たれる…」色々なネガティブな言葉が浮ぶが、4年たっても手がつけられない原発事故を思うと勇気を持って声を上げていかなければ! 「再稼動反対!」と。

発行:原発を考える会・玉川学園

http://genpatuwokangaerukai.jimdo.com/

代表:八木ともみ

kusukusu-tomomo@willcom.com

顧問:藤井石根、井野博満

編集:浦谷捷子(042-723-0979)、真田幸子

村上功子、 桃澤洋子、 武内和美